新見公立大学紀要　第40巻
pp. 59－63, 2019

研究ノート

小児看護学実習に導入したプリパレーションツールを活用した教育方法とその学習成果

上山　和子[1)]*・山本裕子[1)]・西村美紗希[1)]・小田慈[1)]

1）新見公立大学健康科学部看護学科

（2019年11月20日受理）

小児看護学実習に導入した「プリパレーションツール」を活用した教育方法とその学習成果を明らかにし、今後の教育方法に活かすことを目的とする。研究方法は、質的帰納的研究である。レポート記録を分析した結果、【子どもの恐怖感を軽減する工夫】【処置前の十分な説明の必要性】【子どもの協力を得た展開方法】【子どもと保護者の反応】【小児外来看護の役割】の5カテゴリーで構成されていた。

以上より、学生は、小児看護学実習の外来実習に導入したプリパレーションの成果について振り返ることにより、実施時の子どもの反応を捉え、処置前の十分な説明の必要性を学んでいることが明らかになった。

（キーワード）小児看護学実習、プリパレーションツール、学習成果

Ⅰ．はじめに

小児看護学実習は、健康な子どもを対象とした保育所実習と健康に問題をもつ子どもを対象とした病院実習で展開している。一方、少子化に伴い、病院実習は従来からの小児科病棟を中心とした実習展開から子どもの入院の減少に伴い、病棟以外での実習を展開する教育方法の検討が求められている。日本看護系協議会の調査では、看護過程を中心とした病棟実習は6割を占めている[1)]。小児科病棟以外の実習では、小児科外来や障がいをもつ子どもが通う施設での実習の取り組みについて報告している[2)]。

Ａ大学の小児看護学実習では、健康に問題をもつ子どもの実習として小児科病棟での実習および小児科・内科病棟での実習を展開している。加えて小児科外来での実習を展開している。小児科外来実習では、乳幼児健診や予防接種などの健康な子どもを対象とした実習と疾病の症状である発熱や嘔吐・下痢などの健康に問題をもつ子どもを対象とした実習を展開している。学生は、小児科外来に来ている子どもと家族の反応などから、非常に緊張感が強く処置に臨んでいる子どもに対して恐怖感の軽減に向けた看護の必要性を認識する機会がある。

現在、小児医療・看護では、処置に対する子どもの能力を引き出す方法としてプリパレーションが取り入れられている。プリパレーションは心理的準備と訳され、手術や検査処置などに子どもが主体的に取り組めるように、事前に紙芝居を用いた情報の提供やツールを用いて模擬体験を行うことで子どもが本来もっている能力を引き出すことができると言われている[3)]。

小児科外来実習では、病棟実習に比べ直接的な援助が少なく、見学になることも多い。そこで、Ａ大学看護学科の小児科外来実習では、学生が処置・検査などに直接的に関わる内容としてプリパレーションツールを活用した実習方法を取り入れている。プリパレーションの項目は、実習展開に応じて採血や吸入などの項目を設定し、プリパレーションに用いるツールの準備及び実践を行う。

今回、小児科外来実習でプリパレーションを用いた実習展開を行うことで学生は子どもや保護者の反応から実践的な介入方法について学ぶ機会となっており、その成果を明らかにすることで、小児科外来実習での新たな教育方法の示唆を得られると考えた。

本研究では、小児看護学実習に導入したプリパレーションツールを活用した教育方法とその学習成果について明らかにし、今後の実習指導方法を検討することを目的とする。

Ⅱ．用語の定義

プリパレーションとは：心理的準備と訳され、「病気、入院、検査、処置などによる子どもの不安や恐怖を最小限にし、子どもの対処能力を引き出すために、その子どもに適した方法で心の準備やケアを行い、環境を整えること」と定義され[4)]、事前に紙芝居を用いた情報の提供やプリパレーションツールを用いて模擬体験を行うことで子どもが本来もっている能力を引き出すこととする。

Ⅲ．研究方法

１．研究デザイン：質的帰納的研究

*連絡先：上山和子　新見公立大学健康科学部看護学科　718-8585　新見市西方1263-2

２．対象：2017年から2018年にA大学小児看護学実習の外来実習でプリパレーションを用いた実習を展開した学生の「小児看護学実習」のレポート記録で本調査に同意が得られた20人分。

３．調査方法および分析方法：小児看護学実習でのレポート記録を内容分析した。分析の過程では信用性・確証性を高めるため、研究者間で繰り返し検討した。

分析の手順として、

１）小児看護学実習における小児看護学実習記録を内容分析した。

２）同意の得られた実習記録の内容を一文ずつコード化し、データ化した。

３）データ化後、類似内容をカテゴリー化し、分析を行った。

４．倫理的配慮：A大学小児看護学実習修了後の実習評価の成績が確定後に本研究に関する内容についてメールを用いて予め伝え、説明文書を用いて同意を得た。説明の文書には、研究目的、内容分析によるデータ処理、匿名性が完全に確保されていること、実習評価も終了しており成績に一切関与しないこと、取得したデータおよび結果は、研究目的以外に使用せず、研究期間中は大学内の鍵の掛かる保管庫に収納し、データおよび資料は研究終了後一定期間保管後に消去し、資料はシュレッダーにかけ廃棄すること。本研究は、教育上の基礎資料として取り扱うが、まとめた結果は学会及び論文等に発表すること、同意が得られない場合は、データから外すこと、研究への参加を途中で撤回できること、この研究に参加することで、利益・不利益は発生しないことを記載した。同意が得られた実習記録分を分析対象とした。本研究は新見公立大学倫理審査委員会の審査を受けた（承認番号172）。

Ⅳ．A大学小児看護学外来実習にプリパレーションを導入した実習展開の概要[5)]

A大学小児看護学実習の外来実習では、プリパレーション（心理的準備）を用いた教育方法を展開している。プリパレーションのテーマは、実習初日の体験を基に実習メンバーで検討し、協議を重ねグループで一つに絞りプリパレーションで用いるツールを準備し、翌週の実習で実践する（図1）。以下にプリパレーション実践時の内容を示す（表1）。

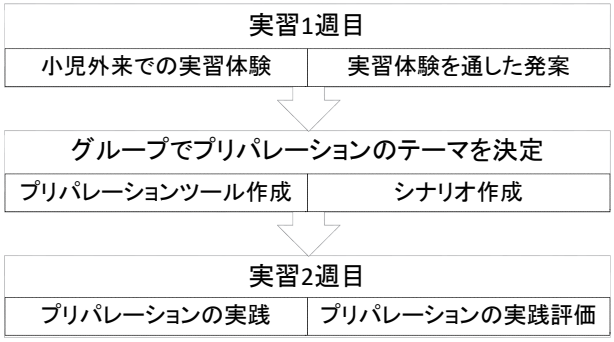

図１．プリパレーションツールを活用した小児看護学外来実習の展開

表１．プリパレーションの活動内容

回	題名	内容
1	予防接種	予防接種の流れについての説明（予防接種の意味、注射を受ける時の姿勢など）
2	診察介助	診察時の受け方についての説明（咽頭発赤の観察、胸部聴診など）
3	採血・点滴	採血時の流れ、採血する部位についての説明
4	予防接種	予防接種の流れについての説明（予防接種の意味、注射を受ける時の姿勢など）
5	診察介助	診察時の受け方についての説明（咽頭発赤の観察、胸部聴診、椅子への座り方など）
6	吸入	吸入の流れについて説明（薬が煙のようにでてくる）

内容としては、小児科外来の処置で多い「採血」「予防接種」を取り上げていた。しかし、処置ではないものとして、どの子どもも受ける「診察介助」を取り上げ、必ず実践できる内容を取り上げていた。

Ⅴ．結果

学生のレポート記録を分析した結果、46コード、12サブカテゴリー、【子どもの恐怖感を軽減する工夫】【処置前の十分な説明の必要性】【子どもの協力を得た展開方法】【子どもと保護者の反応】【小児外来看護の役割】の5カテゴリーが抽出された（表2-1-5）。

以下、「　」サブカテゴリー、＜　＞はコードを示す。

１．子どもの恐怖感を軽減する工夫

「子どもの恐怖感を多角的な方向から減らすアプローチ」には、＜看護師は、子どもの怖いという思いや負担に色々な方向からアプローチして取り除いてあげることが

表２－１．プリパレーション実践での学び

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
子どもの恐怖感を軽減する工夫	子どもの恐怖感を多角的な方向から減らすアプローチ	・看護師は、子どもの怖いという思いや負担に色々な方向からアプローチして取り除いてあげることが役割だと学んだ。 ・小児看護学実習を通して印象に残っているのは、ディストラクションやプリパレーション、啓発活動である。対象となる小児の発達段階に適した言葉や表現方法、演出方法について理解を深めた。
	子どもは病院での不安が大きいので軽減するためのプリパレーションが必要	・子どもは診察や処置などで何をされるのではないかという不安が強いため、軽減のためのコミュニケーションやプリパレーションを活用することが分かった。 ・子どもにとって病院がただ嫌なことや痛いだけをする場所として認識されることがないよう常に子どもの目線に立って関わりを持つことの必要性を考えることができた。
	プリパレーションの内容を決定するためには根拠が必要	・プリパレーションで対象や内容を決定するにあたって根拠が必要であることが分かった。 ・プリパレーションでは、言葉選びの難しさややる気を出させる方法をどのようにすればいいのか悩み、嘘をつかないことが大切だと学んだ。

表２－２．プリパレーション実践での学び

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
処置前の十分な説明の必要性	紙芝居を使って視覚的に子どもに伝えることの大切さ	・紙芝居を使ってのプリパレーションなど視覚的に情報を子どもに伝えることの大切さを学んだ。 ・プリパレーションを実施することで、児の教育の1つになることも分かった。
	プリパレーションは、医療行為を円滑に行う上での手段の一つの方法	・プリパレーションは、医療行為を円滑に行う手段の一つでもあることが分かった。 ・プリパレーション・ディストラクションでは、児とどのように接すれば良くなるのか子どもの目線で考え実施し、処置や知らない場所に対する恐怖感を和らげるコミュニケーションのツールであること学んだ。

表２－３．プリパレーション実践での学び

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
子どもの協力を得た展開方法	その子どもに応じた声掛けの方法や介助方法	・小児科は体格や発達も全く違うので声掛けの仕方や診察介助の仕方など、その子どもに応じたものを行わなければならない。 ・子どもと接するときは、その子の年齢に応じた発達段階にあるかを考えることによって効果的な関わりができることが分かった。
	子どもの発達年齢に応じた説明に用いる言葉の選択	プリパレーションでは年齢によって言葉の理解が違うため、分かりやすく説明するためには、どうしたらいいのかいう言葉の選び方が難しかった。 ・何事も発達段階がからんでくるので、プリパレーションでは絶対に必要と思った。
	子どもの発達段階に応じたプリパレーション方法の実際	・プリパレーションでは、小児の発達段階に応じて行うことが効果的である。 ・プリパレーションを通してどのような話しの内容にすれば子どもたちに聞いてもらうことができるのか、発達段階を理解していないとできないものだと実感した。

表２－４．プリパレーション実践での学び

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
子どもと保護者の反応	子どもと保護者の反応による情報を得る方法	・児には自ら訴えられない分も保護者から情報収集をし、実際自分で観察して児の思いを読み取ることが必要であることを学んだ。 ・子どもだけでなく、保護者もいるという難しさや情報の得やすさを感じた。
	子どもの頑張りを保護者に伝えることで甘える場の提供	・点滴や採血の処置後は、お母さんに児の頑張ってくれたことを伝えて児がお母さんに甘えられるようにする。 ・小児と接するときは、何々するの楽しいね。でもねしないと次のお友達が遊べないよというふうに一旦肯定してから提案する。

表２－５．プリパレーション実践での学び

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
小児外来看護の役割	小児外来での診察介助をとおした看護の役割	・プリパレーションや診察介助など実際に体験することが多く、大変であったが、とても学びの多い実習であった。 ・診察介助では、自分の行動で危険を及ぼしてしまうことがあるということを自覚した上で行動しなければならない。
	子どもの頑張りを母親に伝えることが看護の役割では重要	・自分で上手に言葉を使って話すことのできない子どもの代弁者となってお母さんに頑張りを伝えることが大事な看護師の役割である。 ・小児看護の役割として、小児は病院や医療と接するはじめての場であるため、教育の場でもあると感じた。

役割だと学んだ＞などが抽出された。

「子どもは病院での不安が大きいので軽減するためのプリパレーションが必要」では、＜子どもは診察や処置などで何かされるのではないかという不安が強いため軽減のためのコミュニケーションやプリパレーションを活用することが分かった＞などが抽出された。

「プリパレーションの内容を決定するためには根拠が必要」では、＜プリパレーションで対象や内容を決定するにあたって根拠が必要であることが分かった＞などが抽出された。

２．処置前の十分な説明の必要性

「紙芝居を使って視覚的に子どもに伝えることの大切さ」では、＜紙芝居を使ってのプリパレーションなど視覚的に情報を子どもに伝えることの大切さを学んだ＞などが抽出された。

「プリパレーションは、医療行為を円滑に行う上での手段の一つの方法」では、＜プリパレーションは、医療行為を円滑に行う手段の一つでもあることが分かった＞などが抽出された。

３．子どもの協力を得た展開方法

「その子どもに応じた声掛けの方法や介助方法」では、＜小児科は体格や発達も全く違うので声掛けの仕方や診察介助の仕方など、その子どもに応じたものを行わなければならない＞などが抽出された。

「子どもの発達年齢に応じた説明に用いる言葉の選択」では、＜プリパレーションでは年齢によって言葉の理解が違うため、分かりやすく説明するためには、どうしたらいいのか言葉の選び方が難しかった＞などが抽出された。

「子どもの発達段階に応じたプリパレーション方法の実際」では、＜プリパレーションでは、小児の発達段階に応じて行うことが効果的である＞などが抽出された。

４．子どもと保護者の反応

「子どもと保護者の反応による情報を得る方法」では、＜児には自ら訴えられないも保護者から情報収集し、実際に自分で観察して児の思いを読み取ることが必要であることを学んだ＞などが抽出された。

「子どもの頑張りを保護者に伝えることで甘える場の提供」では、＜点滴や採血の処置後は、お母さんに児の頑張ってくれたことを伝えて児がお母さんに甘えられるようにする＞などが抽出された。

５．小児外来看護の役割

「小児外来での診察介助をとおした看護の役割」では、＜プリパレーションや診察介助など実際に体験することが多く大変であったが、とても学びの多い実習であった＞などが抽出された。

「子どもの頑張りを母親に伝えることが看護の役割では重要」では、＜自分で上手に言葉を使って話すことのできない子どもの代弁者となってお母さんに頑張りを伝えることが大事な看護師の役割である＞などが抽出された。

Ⅵ．考察

１．プリパレーションツールを活用した小児看護学外来実習の学習成果

１）子どもの恐怖感や不安を軽減させるプリパレーションの意義についての理解

学生は、子どもの人権を尊重し、インフォームドコンセントやアセントを用いて処置前に十分に説明することの意義を捉えることができている。小児看護学概論では、子どもの人権について講義しており、実習体験をとおして処置前の同意の必要性を学習できたと考える。大森らは、講義で子どもの権利について教授し、演習、実習と関連させることの必要性を述べている[6]。看護実践的には、プリパレーションツールを活用するだけでなく、「処置前の十分な説明の必要性」で取り上げているように発達年齢に応じて十分に説明することで処置などの医療行為も円滑にいく一つの方法として学んでいる。ツールだけでなく十分な時間を掛け説明することもプリパレーションの一つである[7]。

つまり、学生は、小児看護学実習の外来実習に導入したプリパレーションの学習成果について実践したことを振り返ることにより、処置前の十分な説明の必要性を学んでいたと考える。加えて子どもの恐怖感や不安感を軽減させる方法として、疑似体験としてプリパレーションツールを活用して介入することで、より効果的であることを学習出来たと考える。

２）子どもおよび保護者の反応をとおした学習成果

プリパレーションツールを活用した実践時の子どもおよび保護者の反応としては、協力を得るために発達に応じた介入方法の必要性を捉えている。これは、二宮ら[8]の結果と同様で、子どもは発達段階によって理解が違うために、発達年齢に沿って実践していくことを学んでいる。この体験をとおして学生は、プリパレーションの実際の場面で子どもの協力的な対応を導きだし、子ども自らの力を引き出すことで次回の受診時や処置に繋がることを学んでいる。

つまり、小児科外来では、採血や点滴などの痛みを伴う処置だけでなく、吸入や診察の介助など恐怖感が優先され子どもの協力が得にくい中で、プリパレーションでの体験により、子どもが自主的に取り組む行動を学んだことは、子どもの可能性を導き出し、発達過程の中で困難を乗り越えていく援助の一つとして捉えている。

３）プリパレーションをとおした小児外来看護の役割の理解

プリパレーションをとおした小児外来看護の役割では、診療の補助が大きな役割となる。一方で処置を受ける子どもの頑張りを認め、子どもの協力に対する感謝を家族に伝えることも看護の役割として大きい。

子どもの恐怖感を軽減させる方法として、プリパレーションツール用いて具体的に説明する体験をとおし、外来看護の役割の実際を学んでいたと考える。そして、子どもだけでなく、外来受診を通して成長する姿勢を見守った保護者の反応を捉え、小児看護におけるプリパレーションの重用性を学べたと考える。

小児外来看護の役割として、まず挙げられるのは、前述したように診療の補助である。小児外来は、健康に問題を抱える子どもおよび保護者が最初に受診する場である。発熱などの症状により、受診する子どもと保護者にとって受診するまでの子どもの症状に対する対応と機嫌が悪い子どもへの対応を抱えており、受診前から保護者の疲労感は強い。

また、診察と症状に対する処置を受ける子どもと保護者の不安は大きい。そのため、プリパレーションを導入することにより、子どもの恐怖感や不安感を軽減することでスムーズに診察や処置を受けることができると考える。

２．プリパレーションツールを活用した教育方法としての小児看護学外来実習の課題と教育実践への示唆

小児看護学実習にプリパレーションを導入した展開方法について報告されているのは、ほとんど病棟での受け持ち制である[9]。本調査のように小児科外来実習でテーマを決定し、プリパレーションツールを作成、実践する教育方法の導入はほとんどみられない。

これは、小児科外来で実習を展開する教育方法が少ないことと、主に見学実習になることが多いと考える。今回、学生が主体的にプリパレーションを実施する場面を設定し、場面に応じたツールを作成、小児科外来で実践する意義は大きいと考える。

プリパレーションが導入された経緯は、手術前に行う説明時に子どもが理解しやすく、恐怖感を軽減するために導入された。特に身体侵襲を伴う処置や検査などに用いられるようになった。

しかし、身体侵襲を伴わない診察においても子どもの恐怖感は強い。特に小児科外来では、短時間の中で診察や処置が行われていく。その状況下で、ゆっくり子どもと関わる時間が少ない中でも不安を軽減することも看護の役割である。そのため、日々のケアなどに子どもの協力が得られ、自主的に行動する場面を体験することで、子ども本来が持っている力を引き出すと考える。

一方で、実習場面の展開が変化しやすい外来実習でプリパレーションツールを作成し、実践することの学生の負担は大きいと考える。そのため、実習時間内にプリパレーションを検討する時間を設け、カンファレンス等でグループ内での意見交換を行っている。

今後の課題として講義・演習での学習をとおして、予めプリパレーションが実践される場面を予測し、準備を進めて実習に臨むような展開方法を取り入れていく必要がある。

教育実践への示唆として、ますます病棟での小児看護学実習の展開は困難を要すると考えられる。そのため、あらゆる健康レベルの場面での子どもへの影響を考え、小児看護を提供する場面を学ぶ機会[10]の一つとしてプリパレーション実践時の看護の役割を学ぶことの意義は大きいと考える。実習でプリパレーションを実践するために村井らは臨床での協力を得ることの必要性を説いている[11]。

以上より、短期間の実習である小児科外来実習でプリパレーションツールを活用した実習を展開していくには、臨床と教員との役割を明確化し、連携していくことが必要不可欠といえる。

本研究における利益相反に関する開示事項はありません。

謝辞

本研究にご協力をいただいたA大学看護学科の学生に感謝致します。

文献

1）日本看護系協議会：小児看護学実習実態調査．日本看護系協議会による全国調査報告書，2-24，2015.
2）宮谷惠・大見サキエ・宮城島恭子：教員からみた学士課程における小児看護学実習の現状．日本小児看護学会誌，22(2)，68-74，2013.
3）及川郁子監修：チームで支える！子どものプリパレーション．10-31，中山出版，東京，2012.
4）西澤恭子：平成14年度厚生労働省子ども家庭総合研究所海外派遣報告書.
5）新見公立大学健康科学部看護学科：看護学実習実施要綱.110-118，2017.
6）大森裕子・岩瀬貴美子・友田壽子：看護系大学におけるプリパレーションに関する教育の現状．日本小児看護学会誌，26，132-137,2017.
7）森浩美・岡田洋子：小児看護学実習指導に携わる看護師の看護学生に対する指導内容－検査・処置を受ける子どもの看護に関して－，23（3），63-69，2014.
8）二宮恵美：小児看護学実習におけるプリパレーションの実施状況．群馬パース大学紀要，19，67-72，2015.
9）今野美紀・上村浩太・蛯名美智子他：小児プリパレーションに対する看護学生の認識－講義前・後・実習後の変化より. 日本小児看護学会誌, 20（１）, 127-135, 2011.
10）文部科学省：看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm（2018.10.31）
11）村井博子・流郷千幸・平田美紀他：小児看護学実習におけるプリパレーション学習の実際と課題－日本小児看護学会第26回学術集会のテーマセッションを通して－．聖泉看護学研究，6，39-44，2017.

Learning Effects of Preparation Tool Use during Pediatric Nursing Training

Kazuko UEYAMA, Yuko YAMAMOTO, Misaki NISHIMURA, Megumi ODA

Department of Nursing, Niimi University, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This study examined the learning effects of preparation tool use during pediatric nursing training, adopting a qualitative inductive approach, as a basis for discussing appropriate methods of nursing education using such tools. Through report analysis, 5 categories related to preparation tool use were created: [approaches to reduce children's fears], [necessity of providing sufficient explanation before each care procedure], [methods to develop nursing practice with cooperation from children], [children's and their parents' responses], and [roles of pediatric outpatient nursing].

The results revealed that students had assessed children's responses to their practices, and learned the necessity of providing sufficient explanation before each care procedure by retrospectively examining the outcomes of preparation during pediatric outpatient nursing training.

Keywords: pediatric nursing training, preparation tool, learning effects